



No. 331

発行

天理教山口教務支庁

〒754-0001

山口市小郡上郷1569番地1

TEL 083-972-5004

FAX 083-972-5003

MAIL kyomu@honey.ocn.ne.jp

7月本部お勤め時間

日	朝	夕
1～15	5:00	7:30
16～31	5:15	



今思う事

周徳支部長

穂山正子



移転建築をさせて頂いて丸五年が経とうとしています、梅雨の頃になると思いいきずにはいられない出来事があります。以前の教会建物は、創立当初からの建物を持って来たもので、湿気の多い所で白蟻被害と老朽化が著しく、近年の地震と台風に加えて区画整理で走り回る十

トントラックや下水工事の影響で、まさにレッドカードの状態でした。緊急避難を迫られる思いで普請を決意しましたが、そこから十年雨との戦いの日々でした。

当時、長男はおちばの学校に在学中でしたが、中学生だった次男・三男は毎週のように私や信者さんと雨漏りの修理に屋根に上がったり、雨の為にボードをき出しになった土壁にボードを貼ったり、悪戦苦闘していました。弟たちの一所懸命家を心配する姿を見るにつけおちばに居る長男がのほほんとしている様に思えて、ちよつとは弟達の苦勞を見せようと教育実習の一ヶ

月間、長男を地元の学校に帰らせる事にしました。ところがその年の梅雨は、どう言う訳か梅雨入り宣言以来一度も雨が降りません。長男に「ちよつとは屋根に上がって様子を見てくれた？」と尋ねると、「見たよ。」と。懐かしい風景を楽しんで、「俺が上がつてもかえって瓦が割れるといかんから、すぐに降りた。」と、サラリと言います。「エー!？」言われてみれば最もですが、「もつと真剣に見てヨ。」とヤキモキ。

ところが、一ヶ月過ぎて長男がおちばに戻って行った翌日、待っていましたとばかり、ひっくり返した様なドシャ降りで、

結局弟達が大騒動しました。開いた口がふさがらない思いでしたが、今にして思えば、教会の普請は人間思案でするものではなく、又各々の成人を促される心の場であるとお聞かせ頂きます。きつと持ち場立ち場の役割とそれを勤める旬があつたのでしよう。いざ本番の時には、やはり長男が芯になって大きな役割を担い、二人の弟達は別の方角から有難い形でサポートをしてきています。豪雨の度にあの頃を思い出しますが、次は緊急避難ではなく勇み心の集まつた陽気ふしんをさせてもらいたいのものです。

それにつけても、もう一つ思ひ出すのは、一部解体の折、訓練と言う事でお世話になりました災害救隊の皆さん。本当に手際良く、気持ち良く、終了時には木ギレ一つ落ちていませんでした。掃き清められた様な片付き方に、心から感動を覚えました。

修理巡教について 後藤成実先生 7月御巡教日程【柳井支部】

1日 (日)			柳井津 分 14:00～	大畠港 分 16:00～
2日 (月)	理積 分 9:00～	京丹柳 分 10:50～	馬木尾 分 13:20～	柳洋 分 15:20～
3日 (火)	防長 分 9:00～	一柳 分 10:50～		

これが、聞きしに優る災救援さんの仕事！この時のご恩は生涯忘れられない、お道の精神のお手本を心に刻んだ、私の人生の大切な思い出の一頁になりました。

願わくば今年も訓練で済んで頂けます様に、その節は有難うございました。

布教部

ようぼく成人講座 事前研修会

去る五月二十九日に布教部主催で本年度の成人講座事前研修会が開催されました。

講師は昨年同様、本部布教部より向正則先生に出向いただきました。



向先生との前日の打合せの際、これまでの研修会とは全く異なる新たな手法に触れて感嘆させられ、翌日の本番は、これは一味違うことになると感じました。

案の定、研修会当日は、ながら映画「セツシヨン」のワンシーンを観ているかのような手法で、模擬に出演されている方々が先生からある意味罵倒されながら、自分の役割と本気で向き合っている姿に触発され、参加者の方々も熱心にメモを取りながら受講されている姿が目につきました。

そして、午後からは、参加者から選抜された方がそれぞれの役割で模擬演習を行い、終始大変有意義な研修会が行われたように感じました。

そして、言うに及ばずですが、今回の研修会を糧に各支部において、受講された方に「良かったわ」と喜んでいただけるよう

な成人講座を是非開催していきたいものです。

記・中村壮次郎

やまぐち「きびる会」

わかぎ維新塾

第一回目のわかぎ維新塾のスタッフをさせていただいて、改めて「育む」ことの大切さを感じさせていただきました。参加してくださった子供さんたちは、小学五年生から高校生まで総勢二十名です。邪険に断られて傷つきながらも、「手渡ししたい」と懸命にインターホンを押して回り、二時間みっちり手渡しでリーフレットを配りきってくださいました。

この子供たちの一生懸命な姿は、少年ひのきしん隊経験者の勇んだ「にをい」がつくりだしました。勇んだ良い「にをい」

は、周りの子供たちにも伝わりとてもいい雰囲気で、プログラムが進んでいきました。

この「にをい」のおおもとは、団長先生から発散されています。団長先生は少ひ担当責任者の時から少年ひのきしん隊に参加してくださる隊員さん一人一人のことを本当によくご存じで、更にカウンセラーさんたちとはも

っと関わりが深く、少ひを通して参加者と関わり、その関わりが、多くの「育み」となり、その少ひ担当を受け継いだ後任の



先生も、常日頃からカウンセラーさん達に声かけを欠かすことなく関わり続け、そんな日頃の育みの積み重ねが、わかぎ維新塾が生きた行事になったと感じました。

「また来年も参加したい」そう言って帰っていった子供たちの「育み」は一泊二日の行事だけではできません。そして、この子たちが立派なよふぼくとなるためには、これからまだまだ多くの方の関わりが、「育み」が求められます。きびる会の更なる躍進に期待しています。

記・篠田善臨

学生担当委員会

高校生の集い

まなびば

六月九日から十日にかけて、高校生の集い『まなびば』が下

関市豊田湖畔公園にて開催され『ご恩く火・水・風』のテーマで学生十名、学生会担当者十五名の総勢二十五名が参加しました。

屋外でのプログラムが中心の計画で、当日の天候が危ぶまれましたが、親神様のご守護のもと予定通りのプログラムを実施することができました。

この「まなびば」では HARP と呼ばれるグループワークの手法によって、誰でもすぐに仲良くなれるよう、また楽しく親しみやすく教理が学べるようなプログラムになっています。そのため参加した学生がすぐに仲良くなることができます。実際に参加者を送迎された担当者は、「明らかに帰りの車内の雰囲気がいぎやかになっていた」と言っておられました。まなびばを通して学生が仲良くなる姿を肌で感じられたようです。

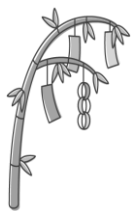
参加した学生がたくさんの

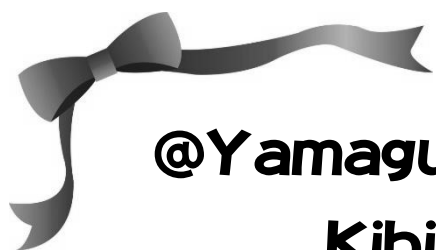


「お土産」をもらって喜んでくれたように、担当者もまた次代を担う若者を育成する喜びを感じながらつとめることができた。有意義な場となりました。

来年も一人でも多くの高校生が親しみやすく教理に触れることができ、同じ道を歩む仲間との出会いの場となるよう開催したいと思います。

記・中村吉元





@Yamaguchi
Kibiru

厚狭野支部



山口県下でも小さな支部でありまして、成り立ちは厚狭地区、小野田地区を合わせて厚狭野支部となり、唯一地名ではない支部であります。又、市では、厚狭郡と小野田市が 13 年前に合併して、山陽小野田市となり、約 64000 人が住んでおります。

当支部の長年に渡る活動が続いているのは、支部内の教友の皆様方のつながり・お力添えのおかげであります。大変有り難いことです。

“宗派をこえて”

支部で唯一下関市にある教会の近くに高杉晋作の縁のお寺である「東行庵」を毎年ひのきしんデーの会場としています。東行庵記念館の館長さんからは、宗派を越えてのボランティア精神（ひのきしん）、誠に有難く、梅林、東行池、ショウブの花など観光に来られる方々が快く見学され、誠に感謝致しておりますと挨拶がありました。毎年すがすがしい気持ちでひのきしんに励んでおります。



“40年の歴史”



婦人会は、毎月 28 日を婦人会例会日として、教理勉強、おてふり・女鳴物勉強などを行い、年に 2 回の母親講座を開催しております。この他の活動として、昭和 53 年に始まりました「老人ホームの洗濯たたみひのきしん」を約 40 年間続けております。当初は布のおしめの時代だったことから「おしめたたたみひのきしん」と呼んでいましたが、時代も変わり紙オムツが主流となり、洗濯物をたたませていただく作業が主となったため、現在の名前となりました。ここ数年の間で一般の方にも参加していただけるようになり、和気藹々にも勇んでひのきしんに励んでいます。

今年はこうしたひのきしん活動のつながりから毎年 4 月に開催します少年会行事、「教祖ご誕生まつり」を初めて当老人ホームを会場に、窓拭きなどのひのきしんをさせて頂き、入居者の方と触れ合う機会を持たせていただき少年会員にとっても良い経験となりました。このつながりを大切に、伝統あるこの活動をこれからも変わることなく続けさせて頂きたいと思っております。

